

# ONE LOVE 通信 37号

2008年4月13日発行

寒い寒いと縮こまっていた季節も終わり、気がつくとも梅の花や桜の花。春の香りに心が躍ります。

夜が来れば朝が来る。雨が降ればまた日も照る。そして冬の次は春。

世の中にはつらいことがたくさんあるけれど、正面からそれに向かっていけば、いつかきっとすばらしいことに出会う。

そう信じながら、今日もがんばろうと思う私です。



## 【義足作りはエンドレス】

ルワンダで義足作りを始めてから、もう干支が一周してしまっただけ。いろんなことをしてきたような、まだ何もしていないような…。「責め」の姿勢だった最初の頃。今は「守り」の姿勢になってきている。

年末から年始にかけて、そして2月になってからも、ワンラブでは義足作りに忙しい。

まずはキガリ市ガサボ地区の障害者の義足作り。この人達の義足は、政府からの援助も受けられそうな気配。ワンラブの予算が少なかったため、義足作りのペース落ちていたけれど、久しぶりの政府からの仕事で、スタッフもやる気いっぱい。指揮をとるのはセザール。今では在庫の管理も任せられ、一人一人の義足の材料を丁寧に選んでいく。

本来ならば2ヶ月先に政府の人を交えて義足を配布するはずだったのに、そんなのにのんびりした仕事はしてられないと、あっという間に仮合わせ（製作の途中で一回装着して、様子を見る行程）までやってしまう。この間約1週

間。一生懸命作っても、一度でなかなかピタリと合わせることは難しい。特に初めて義足を履く人は、最初は歩くのを怖がって、一步が踏み出せない。スタッフがそんな人達を勇気付けながら、立ち上がる。最近がんばっているのは、去年日本で研修を終えたパトリック。年齢的には若いけれども、少しずつ自信をつけ、今ではいろいろな意見を言うようになった。ワンラブで義肢装具士として働いているのは、ほとんどが足に障害を持つスタッフたち。時には歩く練習に疲れ、弱音を吐く患者さんもいる。彼らに対して、自分たちの経験やアドバイス、そして自分の義足や装具を見せて元気付ける。そうしているうちに、だんだんと歩けるようになってくる。弱音を吐く患者さんを決して甘やかさないのはガテラ。時には厳しく、時には優しく彼らに語りかける。

仮合わせを終え、仕上げの作業。せっかく足に合うように仮合わせをしても、仕上げが汚くては台無し。これは親方が私に教えてくれた大切なこと。革の縫い方や、接着剤の使い方を、丁寧に教えてくれたっけ。



そしてこれもあつという間に仕上げ、患者さんの手元に義足が渡されたのは、仕事を請けてから1ヵ月後。みんなやればできるじゃない！

そうこうしているうちに、ブルンジの仕事が入ってきた。今回は50人分の義足作り。ブルンジの義肢製作所には、2005年度日本で研修を終えたエマールが待ち受けているが、一人では大変なので、急遽ガテラと共にセザールもブルンジへ出発。そこではてんやわんやの型取り作業。集まった障害者たちは、順番に並ばないし、自己主張をするし…。彼らを整列させるのに一苦労。それを見ると、つくづく整然と列を作る日本人がすばらしく見えてしまう…。う～ん、本当に日本人って列を作るのがうまい。これも文化の違いであろうか…。

ブルンジの義肢製作所には、まだ十分な機械がないため、取った型をルワンダに持ち帰って作業を進める。一気に大量の義足を作るため、みんな段取りがうまく取れない。できるだけ時間と材料の無駄を作らないように作戦会議を開いているものの、どうも気持ちが先走ってしまうようである。



<ルワンダに持ち帰り作業>

ルワンダの良いところは、みんなが自分の意見をしっかりと言うところ。感じたこと、思ったことを口にする。時々それが原因で殴り合い(?)の喧嘩も起きてしまうけれど、あとはすっきり。

これは家族の関係でも当てはまる。小さい子供が、おじいさんに自分の意見を言う。でもそれは決して失礼な言い方でなく、きちんと相手に対して尊敬の念を持ちながら言う。おじいさんもそんな子供の意見を、子供の意見として馬鹿にするのではなく、しっかり受け止める。話はそれてしまうが、町をたむろするストリートチルドレン(ルワンダ語でマイボボ)もよくガテラに話しかける。子供と思って侮ることなかれ！実にはっきりと物を言う。そしてそれに対して、真面目に返事をするガテラ。これは見ていて結構ほほえましい。そしてそんな関係がなくなってきた日本人の私からすると、うらやましい。

だからみんな仕事の会議があるとうるさいくらいに自分の意見を言う。言い合い過ぎて結論が出ない事も良くある。さて義足作りである。

切断部を入れるソケットを作るためには、プラスチックのパイプを炉で軟らかくしなくてははいけない。そしてこの

炉を使う作業は、実に大量の電力を使う。ルワンダでは電力はプリペイド方式で手に入れる。つまり最初に予算に応じた分の電力を買い、その電気を全部使い切ったら、自動的に電気がストップするのである。だからソケット作りをする日は、電力が十分に残っているかを確かめてからでないと、途中で作業が停滞してしまう。そしてこの電気代がとて高い。日本の電気代より、ずっと高い。アフリカは物価が安いと思っている人がたくさんいると思うけれど、実はこうした費用(電気代・水道代・電話やインターネットなど)は実は高価なのです。だからこの作業をするときは、ちまちま進めるのではなく、一気に進めてしまわないと無駄な経費を使ってしまう。



<出来上がったワンラブの義足達>

みんなの勢いがついていたので、こちらもあつという間に出来上がり、できたものをブルンジに持って行って仮合わせ。そしてそのまま仕上げまで進めることができました。今まで義足を履いたことがなかった人が多かったので、みんな大喜び。日本人から寄付してもらった靴も一緒にプレゼントしたので、義足よりもそっこの靴のほうが嬉しそうな人たちも…。大の大人が靴の取り合い…。

と、こんな感じで過ぎる毎日。

干支が一周してしまつたと書いたけれど、この仕事はエンドレスだつづくと思う。作ってもいつかは傷んでしまうし、子供の義足は成長に合わせて作っていかなくてははいけない。最初の頃に作った人たちの義足は大丈夫なのかな？壊れたまま使っているのかな？義足を配布してしまうと、なかなかフォローアップができず、彼らがどうしているか知らせもない。

みんな、困つたことがあつたらワンラブに来てね。

これからもワンラブは障害者の駆け込み寺として突き進んでいくのである。

### 【天災には勝てない】

去る2月、ルワンダで地震がありました。コンゴ方面の火山の活動によって起こつた地震で、マグニチュード6.0もあり、死者も出たとか。あまり地震のないところのため、人々の驚きも大きかつたようです。

その地震の数日後、ルワンダのガテラから電話が入り、状況を報告。

…悲しいことに、ワンラブの収入源として運営が続いているレストランの床及び壁に亀裂が入ってしまったということです。送られてきた写真を見て、頭がど〜んと重くなる私。不幸中の幸いは、スタッフが全員無事なこと。



<亀裂が入ってしまった床>

う間に水量が増し、川が決壊。水は義肢製作所まで流れ込んだと言うことです。土砂降りの雨の中、ずぶ濡れになりながら、ガテラとセキュリティーのスタッフは、これ以上水が流れ込まないように作業をしました。

翌日、仕事に来たスタッフは義肢製作所と川の惨状に肩を落としていました。これでは仕事になりません。

そして…。  
更にその数日後。ルワンダでは大雨が続き、ワンラブ内を流れている川が氾濫。義肢製作所が水浸しになってしまいました。雨は夜通し降り続き、心配になったガテラは夜中の3時に起きて、川の様子を見に行きました。あつとい

水をかき出し、掃除を進めます。幸い機械類は壊れなかったようです。その間、ガテラは川の工事です。工事のスタッフを総動員して、買い込んだ石や砂利・セメントなどで堤防を整えていきます。



<右側が川。手作りの堤防>

ああ、しかし。ルワンダ・ブルンジで活動を進めていると、思わぬ出費がたくさんあって、頭が痛い。今回のこの工事も、全く予想していませんでした。

集まった資金を純粋に義足作りに使えれば、もっとたくさんの障害者が立ち上げられる。でも現実には厳しいです。思わぬ出費があるたびに、不安で眠れなくなってしまう。しかしめげてもいられない。これも一つの試練と頑張ってらう！

どうぞみなさん、そんなワンラブを応援してください！



## ルワンダ事務所代表ガテラより

### 一人はつらい…

去年の12月、パートナーである真美を日本において、私は一人でルワンダに向かった。ルワンダとブルンジの仕事を進めていくためである。

帰ってみると仕事が山積み。どこから手をつけてよいものやら…。義足作りはもちろん、たるんでしまったスタッフにも喝を入れなくてははいけない。まったくみんな、鬼の居ぬ間に洗濯である。ああ、そうこうしていると地震だ、大雨だ…。神様はどうして休ませてくれないのだろう…。問題を一つ片付けると、また新たな問題が。休みの日でも、誰かがドアをノックする。しかも大したことない用事で…。

こうして一人ルワンダにいと、パートナーの存在のありがたみを感じる。身の回りのことをしてくれるということももちろんだが、それ以上に精神的に支えがあるということは、非常に心強い。

私も子供のころ、障害者の施設で育てられたように、人間は一人では生きていけない。一人で生きられるつもりでいても、必ずどこかで誰かに助けられている。

これは夫婦間だけでなく、どんな人間関係においても、生きていく上では助け合いが必要になってくる。私が一番大切に思っているのは、物質ではなく、人間の心である。相手を思いやる気持ち、相手を許す気持ち。

世界中のあちこちで戦争や、意味のない殺し合いが起きている。これは相手の存在を忘れてしまっているから、起こってしまうのではないだろうか？日本でニュースを見ると、実に殺伐とした殺人が多い。しかも子供たちがその罪を犯していることもしばしばである。

だから私は、日本で学校を訪ねるときに、子供たちに伝える。思いやりのある人間になってください。隣に座っている友だちを傷つける人間にはならないでください、と。子どもたちが、世界は自分一人では回っていかないということをきちんと理解すれば、無駄な喧嘩はなくなるのではないだろうか？

そんなことを考えながら、日本の真美を思い出す。再会が待ち遠しい。

(真美談：この気持ちは私も全く同じです。この活動を始めてから、辛いことたくさんありました。でもそんな時必ずガテラが助けてくれました。そして日本の人たちに励まされました。相手を思う気持ち、これからもそれを大切にしていきたいと思います。)

# 今号の患者さん



手漕ぎの三輪車いすに乗っているヴィアネと言うおじいちゃん。

このおじいちゃんは、ガテラの古い友だちでもあります。ガテラが子供のころ、ラジオ修理の技術を勉強していた時、そこで出会った人です。

ヴィアネは幼い頃ポリオにかかり、両足が不自由です。両手も自由に使えません。でも器用に三輪車いすを操って、神出鬼没します。ヴィアネは、昔から続いていた障害者の活動、でも今経済的な理由でにっちもさっちもいなくなっている組織を立て直そうと、一生懸命動きまわっています。しかしこの世界も同じ。一生懸命やっている人の足を引っ張る人がいます。欲の皮の厚い、嫉妬深い人たちです。ヴィアネはいろいろな人たちに、活動を継続させるための支援を呼びかけているにもかかわらず、心ない人たち（そして悲しいことに足を引っ張るのも、同じ障害を持つ人です）に「あいつはもらった金を懐に入れてる」などと噂されてしまいます。

ヴィアネはそんな人ではありません。虐殺後、親を失った子供を引き取って育てているような、優しいおじいちゃんです。

## 紹介します！ワンラブのスタッフ



何かとワンラブの話題作りのセザールが登場です。

2000年からワンラブで働き始めました。最初のきっかけは、退役軍人100人に対する義足を作ったとき。彼もその中の一人でした。彼は高校を中退し、当時の反政府軍RPFに入り、ルワンダの平和のために前線で戦っていました。その時手榴弾を受け、片足を失いました。その後ワンラブでスポーツを始め、障害者たちに呼びかけたときに、名乗りを上げたのがセザール。彼は素晴らしい肉体をしていました。以前から若い世代を育てたがっていたガテラは、彼に運動をさせるだけでなく、昼間は義肢装具士見習として勉強をさせることにしたのです。



セザールは義足を作ることも、運動をすることも真剣に取り組みました。特に義足作りで気がついたのは、失敗を恐れず、挑戦していくということでした。他のスタッフは時としてこんなことを言います。「材料がないからできないよ」でもセザールはここにある材料で作っていきこうと相談にやってきます。

<パラリンピックでの写真>

そんな悲しい中傷が続くと、時々ガテラのもとにやってきて相談をします。ガテラ自身もその組織に助けてもらったことがあるので、何とかして再建させたい。夜遅くまで話し込んでいます。一つヴィアネの欠点があるとすれば、それはお酒が好きだということ。しかも強いお酒が。話し込みながら、ついつい深酒をしてしまいます。

それが原因だったのでしょうか。ある日ヴィアネは体調を壊してしまいます。だんだんと顔色が悪くなり、生気が失われていきます。今まで自分で漕いでいた車いすも、人の力を借りなくては動かせなくなってしまいました。それでも組織のことが心配で、無理をしながらワンラブまでやってきます。

若い頃はハンサムだっただろうと思わせるその顔。友だちもたくさんいたようで、世界中の障害者に招かれて、いろいろな所を旅したそうです。

ある日、ガテラが言いました。「ヴィアネが死んじゃったよ…」ああ、きっと組織を立て直すことができなくて、さぞかし無念だったに違いない。意味のない中傷を浴びせられ、悔しかったに違いない。

その日、私はヴィアネに出会った時のことを思い出し、一人で泣いた。さようなら。これからは嫉妬のない世界でゆっくり休んでください。お疲れさまでした。

そして、出来上がった製品を見せに来て、工夫した所を誇らしげに説明します。

またスポーツも同様。ルワンダで初めてパラリンピックに出場した選手がセザールです。ルワンダには大きなプールがなかったため、パラリンピック会場で初めて50メートルのプールを見ました。それにも物怖じせず練習を続けていたセザール。残念ながら最下位でしたが、決してめげることなく大会を振り返っています。

そんな彼の姿を見て、ガテラはセザールを義肢製作所長に任命しました。肩書きを守ろうと一生懸命スタッフをまとめていきます。

そんな前向きな彼に、2003年またチャンスがやってきました。それは日本で義肢製作の勉強をするということでした。たくさんのことを学び、8か月の研修を修了しました。

彼は非常に男っぽく、熱い性格です。それが転じて、場合によっては工房で大声を出しながら、他のスタッフと話をします。事務所で一人お金の計算などをしている私は、しばしば「うるさい！」とどなりこみます。そうするとしばらくは静かなのですが、また大声で話し始めます…。先頭に立つことが大好きなセザールですが、おしゃべりでも先頭に立ってしまうようです…。

これからもセザールはがんばって仕事をしてくれることでしょう。彼がどんなふうに年を取っていくか楽しみです。



# ディアネ in Japan

ワンラブの義肢装具士、ディアネが神奈川県海外技術研修員として8月からの7ヶ月間の研修を終え、3月に帰国しました。日本での様子をお知らせします。

この間ディアネが来日したと思ったら、もう帰国だ！そんな帰国を目前とした彼女と一緒に、長野の小学校を訪れた。この小学校とは、2004年に滋賀県で行われた「地雷をなくそう！世界子どもサミット」のとき以来のお付き合い。今年はこちらの趣向を変えて、5年生と一緒にルワンダのスナック「マンダジ」作りをするのだ。

前日ディアネとA子ちゃんと三人で長野へ。長野駅の近くにある善光寺に行ったものの、寒くてディアネの手が真っ赤。凍傷一歩手前である。翌日は朝から学校へ。いつものようにルワンダやワンラブのことを子供たちに説明する。ディアネのルワンダ語講座も交えながら。3・4時間目はマンダジ作り。マンダジ作りのプロと化したA子ちゃんが子供たちに説明をし、いざ揚げ始める。うう、しかし…。もろもろの要因があり、マンダジが真黒で炭のようだ。子どもたちも愕然としている。ここで私たちの動揺が伝わったらまずい…。無理やり「成功は失敗のもと。人生はそんなこともある！」と納得させ、子供たちもがんばり直す。ディアネも冷や汗をたらしながら、子供たちとマンダジ作りを楽しんだ。

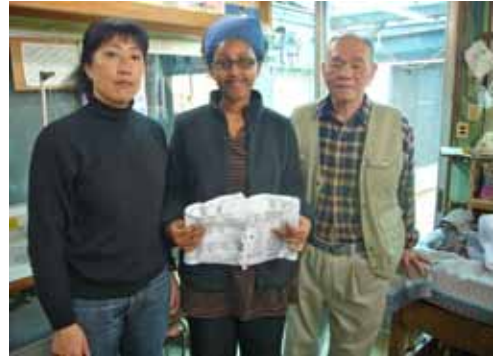


<子供達と一緒にマンダジ作り>

そして研修も残すところ1日となった日、親方の所に行った。親方曰く「今回はコルセット（腰などを痛めた人が身につける）を重点的に教えた。ずいぶんとできるようになった。でも時々疲れているのか、作業に集中していないともある」と厳しいお言葉。プライベートでも結構忙しかったらしいディアネ。でもそれは言い訳にはならない。ルワンダで同じことを繰り返さないためにも、この言葉はきちんと彼女に伝えなくては。

その親方を前に、コルセットの採寸の仕方を復習する。しかし親方の厳しい眼差しを前に、教わったとおりにできない。焦れば焦るほどぎこちなくなってしまう。う～ん、私もそうだった。親方が席をはずし、しょんぼりするディアネ。でも落ち込んでいる暇はない！基本的なことは頭に入っているのだから、あとは経験を積んでいく事が大切。

幸いワンラブにはスタッフがたくさんいる。とにかく彼らをモデルにして、ドンドン採寸の練習をするのだ！毎日メジャーを持って、彼らの身体を計りまくれ！そして自信をつけるのだ！



<ディアネが作ったコルセットを持って、右側が親方>

さよならパーティには、ホームステイでお世話になった家族も来てくれて、高校生の女の子と話は尽きない。考えてみれば、ディアネはまだ21歳。同年代の女性とのおしゃべりが楽しくないはずはない。パーティではディアネがマンダジを作った。今度は焦げずに上手にできた。

そして神奈川県庁での終了式。今回の研修員は全員女性。みんなそれぞれの思いを胸に、国に帰っていく。



<神奈川県庁での終了式、手前左がディアネ>

日本で買ったデジカメを落として壊してしまったディアネは、ど～んと落ち込んでいたけれど、元気良くルワンダに戻って行った。7ヶ月間長くがんばったね、ディアネ。ディアネはワンラブ初の、そしてルワンダ初の女性義肢装具士なのである。女性としての誇りを持ちながら、もっともっと勉強して欲しい。頭の良い彼女なら、きっとそれができるはず。

ディアネのお父さんは障害をもっていて、虐殺の時に殺されてしまったそうです。そのお父さんのためにも、立派な義肢装具士になって下さい。あなたはまだ若い。これからの可能性に期待をするワンラブです。がんばれディアネ。



# 日本事務所より

## 【まだ見ぬあなたに支えられて】

すでに前のワンラブ通信でもお知らせをしていますが、最近ワンラブでは書き損じはがきやテレホンカードの収集、そしてパソコンのクリックをするだけでNGOを支援することができるイーココロの「クリック募金」に力を注いでいます。<<http://www.ekokoro.jp/>>

真剣に書き損じはがきを集めるようになってから、すでに3149枚のはがきや162枚のテレホンカード、そして35,742円相当の切手が集まりました。通信でそのことをお知らせしているせいか、今年も年賀はがきの抽選が終わったら早速送ってくださる方や、わざわざ数枚のはがきを送ってくださる人も。場合によっては、その方(かた)が負担する切手代の方が高くなってしまおうというにもかかわらず、本当にありがたいことです。

またイーココロというクリック募金では現在77名の方が、ワンラブの会員になってくださっています。イーココロでは「ポイントGETクリック募金」と言うのもあり、毎日少しずつ寄付をしてくださる人たちがいます。このイーココロ、自分で会費や寄付金を負担することなくNGOを支援できるし、このサイトを通じてお買い物もできるので、なかなか気に入っています。

今回この二つの試みを通じて、ワンラブの会員さんたちにありがたの気持ちを伝えたいと思います。すでにお会いしている方もいらっしゃいますが、ほとんどの方はまだ会うことができていない。それなのに私たちの活動を支えてくださるというのは、本当にありがたいことです。ガテラやルワンダそして日本のスタッフと事務仕事をしながら、「いったいどんな人が支えてくれているのだろうね?」と話をします。

もしもどこかの町で気がつかずにすれ違ってしまったら、どうか声をかけてください。まだ見ぬあなたの顔を想像しながら、これからもがんばっていきたくと思います。よっしゃ~。(記:ルダシングワ真美)



沢山の切手に交換できました

## 【イベントに参加します】

気持ちの良い季節になってきました。ワンラブも外へ飛び出し活動します。みなさんのお越しを、お待ちしております。注意:アフリカンフェスタについては、現在出展申し込み中です。出展確定のお知らせは、HPまたは茅ヶ崎事務所まで。

### アースデイ 2008

~地球のことを考えて行動する日~

国際協力に関するNGO・オーガニックレストラン、環境問題に取り組む企業などが出展します。コンサートも行われるそうです!!

4月19日(土曜日)・20日(日曜日)

時間:10:00~17:00 雨天決行

場所:代々木公園イベント広場・ケヤキ並木(入場無料)

活動内容の展示・ルワンダ民芸品販売

公式HP <http://www.earthday-tokyo.org/>

### アフリカンフェスタ 2008

~アフリカに触れる2days~

毎年5月に開かれる、アフリカンフェスタ。駐日アフリカ各国大使館、アフリカに関わるNGOが一堂に集まります!!

5月17日(土曜日)・18日(日曜日)

時間:12:00~17:00 (17日)

11:00~17:00 (18日)

場所:横浜赤レンガ倉庫・イベント広場(入場無料)

活動内容の展示・ルワンダ民芸品販売

公式HP <http://www.africanfesta2008.com/>

## 【ルワンダの映画が観れるよ~!】

毎年、アフリカ映画を届けてくれるシネマ・アフリカ。今年は横浜で開催されます。ルワンダ人監督が撮影したルワンダ映画も上映!外国から見たルワンダではなく、本当のルワンダを知るチャンスです!

### シネマ・アフリカ 2008 in 横浜

5月22日(木曜日)~5月25日(日曜日)

場所:横浜情報文化センター/情文ホール

上映時間他、詳細は決まり次第、HPで公開予定です。

主催:シネマ・アフリカ実行委員会

公式HP <http://www.cinemafrica.com/>

## 【おことわり】

\*発送作業の都合上、振込用紙を必ず同封させて頂いておりますが、

すべての方に寄付金・会費を催促するものではありません。

\*当団体はご提供いただいた個人情報について、皆さまからご同意頂いた場合や、正当な理由がある場合を除き、第三者に公開、提供することはございません。

書き損じハガキ、テレホンカードは下記、茅ヶ崎事務所までお送りください。ご寄付は下記の口座まで、みなさまのご支援お待ちしております。

事務の簡素化と経費節約のため、領収書は省略させて頂いています。

必要な場合は、振込用紙の通信欄に「要領収書」とご記入ください。

〒253-0054 茅ヶ崎市東海岸南6-6-69 :080-6564-4448 FAX:0467-86-2092

e-mail:info@onelove-project.info(日本事務所) onelove@rwanda1.com(ルワンダ事務所)

郵便振替口座:00210-5-66497

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

ワンラブ通信 37号 2008年4月

発行:ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

<http://www.onelove-project.info>

